



フードバレーとかがち

# 新たな取り組みにチャレンジしています



## 外山 隆 祥

帯広市  
とやま農場

かぼちゃ・豆類(大豆、小豆、白小豆、黒豆、金時)・小麦・馬鈴薯・菜種・ビートを生産するとやま農場の4代目。飲食店への直接販売、どん菓子・なたね油の加工販売などを行っています。

## 農業・地域・自然が調和する有畜循環農業を実現します!!

■優良なブレンド堆肥を製造し、畑への活用を目指します!

地域内から集めた牛馬糞に、帯広市内の喫茶店より回収したコーヒー粕をブレンドし優良な堆肥を製造し、畑へ還元する事で循環型・持続可能な農業に取り組みます。

■有機質由来の資材を活用します!

コーヒー粕など有機質由来の地域資源を見直して、融雪促進剤、堆肥、敷料としての再活用を研究します。

■ファームステイに挑戦し、農村観光の振興に努めます!

簡易民泊業の許可を取得しファームステイに力を入れることで、農村観光の振興に努めます。

## いまの課題は?

■農薬や化学肥料等、資材の多くを海外のものに頼っているため、円安による高騰や資材不足というリスクを背負っています。

■海外資材に頼らないためには、地域内に存在する有機質由来の資材を見直し、再活用することが必要です。

例えば農業×建築業のように2つの事業を組み合わせる「ハイブリッドファームングコンセプト」構想を学生時代から抱いてきました。



## チャレンジ実現に向けた研究内容は?

有機農業先進国と言われているキューバでは、アメリカの経済封鎖の中で輸入資源なしで農業や経済を回していると聞き、その実情について学んできました。

CCS(コ・オペラチバ クレジット&サービス)。葉巻、コーヒー、バナナ、サトウキビ、大豆のプランテーション。国が農地を所有し9割を買い取り、1割が生産者に還元され、観光客に販売されるなどしています。

ビリヤーデルリオでお世話になったバシリオさん。20年前に学校の先生を辞め、英語ガイドとして観光客を呼び込んでいます。キューバの農業について詳しく教えていただきました。

organopónico(オルガノポニコ、都市近郊型有機農園)。近郊の公共施設(学校、病院、養老施設etc.)へ野菜を供給しています。また、直売所が併設されており、市民が来園し買い物をしています。



畑は横1.2m×縦20m×高さ20cm程度で区切られ、屋根材を再利用した堀で囲われています。雨期のスコールによる地力の流亡を防ぐためです。



林業エンジニアのフレディさん宅ではコンポストの作り方を教えて頂きました。家畜糞尿や野菜の選別くず、灰などを混ぜ合わせて作られており、自家でも庭で鶏を飼って鶏糞を植物に与えています。コンポストをミミズに食べさせて、より吸収性の高い有機肥料として活用しています。

フードバレーとかがち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 キューバに学ぶ ～持続可能な農業の可能性と国家戦略としての農業・農政のあり方を探る～

### 十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。